

A. M. 2025年卒 地域マネジメントコース

こんな学生時代を過ごしました

私は高校生の頃から地域創生に興味を持ち、その思いを深めたいと考えて地域創生学群に進学しました。私の大学4年間で一言で表すなら、「挑戦」という言葉が最も当てはまります。

実習では猪倉実習に所属し、芋焼酎プロジェクトのリーダーとして2年間、6次産業化や地域のシンボル化を目指して活動しました。猪倉地域の魅力を発信するだけでなく、生産者の想いや背景を伝えることを大切にしてきました。また、芋焼酎は若い世代にとってハードルが高いという課題を感じたため、飲みやすいカクテルの試作や地元飲食店への提案、大学生向けのBarイベントの実施など、先輩方の築いてきた伝統を守りながら新しい取り組みにも挑戦しました。ときには地域の方から厳しいご指摘をいただくことや悔しい思いをすることもありましたが、その一つひとつが成長につながる大切な経験でした。

ゼミでは内田ゼミに所属し、フットパスや都市交通について学びました。特にフットパスでは、関係人口の創出や地域資源の活用方法などに重点を置いて取り組みました。

そのほかにもFM実習でのSA、国内外のスタディツアー、大学広報課の魅力発信プロジェクトなど、幅広い活動に関わりました。「やらないで後悔するより、やって後悔したい」という思いから多くの挑戦を重ねましたが、今振り返ると、挑戦そのものが正解だったわけではありません。大切だったのは、挑戦を通して自分の価値観を知り、「自分は何が好きで、何を大事にしたいのか」を見つけれられたことです。

多くの学びと人に恵まれ、自分の価値観が磨かれていった4年間でした。



猪倉実習で週末作業を行っていた際の一枚です。耕運機をかけ、畝を立て、野菜の種をまき、収穫するところまで学生自身で行っていました。育った野菜は地域や学内で販売したり、加工品として活用したりしており、生産者目線・消費者目線など、多角的に物事を見る力を身につけることができました。実は今ではお馴染みのつなぎは私たちの代から始まりました！

卒業後こんなキャリアを歩んでいます

私は「大学を卒業しても地域創生に関わり続けたい」「自分のアイデアで地域課題を解決したい」という思いを持って就職活動をしていました。そんな中で出会ったのが、現在働いている会社「ローカル」です。

特に惹かれたのは、「地方から日本を元気にする」というビジョンでした。まず地方を元気にすることが日本全体の活性化につながるという考え方は、私自身の想いと強く重なりました。また、ローカルは「地方創生×農業×食」を軸に事業を展開しており、猪倉実習に所属していた私には非常に親和性を感じる企業でした。

現在は人財コミュニケーション部（人事部）に所属し、採用や広報業務を中心に、インターシップの企画・運営、社内広報誌の作成など、裁量の大きい仕事を任せていただいています。スピード感あふれる環境で日々新しい経験を重ねながら、やりがいと成長を実感しています。

社会人になってから特に感じるのは、大学で培ったコミュニケーション能力、傾聴力、プレゼン力などが想像以上に活かしているということです。大学での経験は、仕事の進め方や考え方、対人スキルなどとして自然に表れ、私の大きな強みになっています。

そしてこれからは、人事として会社を支える立場で経験を積みながら、自分自身もプレイヤーとして地域課題の解決に挑戦できる存在になりたいと思っています。大学時代に抱いた「地域に貢献したい」という思いを、これからのキャリアの中でも自分らしく形にしていきたいです。



こちらは、今年の内定式で司会を務めた際の一枚です。初めての司会で緊張しましたが、大学時代に培った経験やスキルが大いに役立ちました。こうした場面に限らず、日々のさまざまな場面でも学んだことが生きていると実感しています。

現役生へのメッセージ

私は大学4年間で、本当に多くの経験をさせていただきました。興味を持ったことには積極的に手を挙げ、さまざまな場所に足を運ぶ中で、自分の視野も大きく広がりました。

皆さんに伝えたいのは、「興味を持ったことには挑戦し、夢中になってほしい」ということです。そして、どんな経験をする中でも自分の考えを持ち続けてほしいです。皆さんが、自分らしさを発揮できる何かに出会い、充実した学生生活を送られることを願っています！